

Hem21

財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

NEWS VOL.4 2007.6

「Hem21」とはひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Institute の略称です。

CONTENTS

- 1▶ ころのケアセンター
新センター長就任
- 2.3▶ 平成19年度研究交流セミナー
- 4▶ DRA、トップセミナーの開催
- 5▶ ころのケアシリーズ3
- 5▶ HAT神戸掲示板
- 6▶ 情報ひろば

Interview

山口直彦新センター長に聞く

4年目迎える 「ころのケアセンター」 土台づくりから、次のステップへ

兵庫県ころのケアセンターは、平成16年4月、「ころのケア」に関する全国初の拠点施設として、HAT神戸の地にオープンし、「ころのケア」に関する研究をはじめ、人材養成・研修、相談・診療、情報発信・普及啓発等の諸事業を展開しています。オープンから4年目を迎え、新たにセンター長に就任した山口直彦(甲南大学文学部教授)氏に、就任の抱負とセンターの今後の展開について聞きました。

これまでの成果を生かし、 新たな展開を

災害、事故、犯罪、虐待などが多発し、深刻な問題となっている今、「ころのケア」が一層求められています。これまでに、県内のみならず、全国各地から多くの方が研修を受けられるなど、その活動は全国的にも注目され、本センターへの期待は、ますます大きくなっており、それに答える責任があると痛感しています。

オープンからの3年間、立ち上げの大切な時期に、中井久夫前センター長のもとで、トラウマやPTSDに関する研究や相談・診療を進めるとともに、新潟県中越地震の被災者の方やJR福知山線脱線事故の被害者の方へ「ころのケア」に関する支援を行うなど、し

っかりとした土台が築かれてきました。

これからは、これまでの成果を生かし、次のステップに向け、さらに新たな展開を図っていきます。今年度は新たに3年間にわたる長期研究がスタートし、現在、社会問題となっている自殺や高齢者虐待などについても研究を進めていくこととしています。また、より受講者のニーズに即した研修の実施を図るとともに、秋には、研究成果を広く発信するシンポ



山口直彦センター長

[プロフィール]
神戸市生まれ。神戸大学助教授、兵庫県立光風病院院長を経て、現在甲南大学文学部教授。光風病院名誉院長。医学博士。専門は精神医学。

ジウム開催を予定しています。

今後とも、皆様のご期待に応えるよう、スタッフ一同、取り組んでまいりますので、ご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。





各機関の連携を強化し、さらなる活動の展開を 国際防災・人道支援協議会代表者会議を開催

国際防災・人道支援協議会は、神戸東部新都心を中心に集まった防災や人道支援など様々な分野の国際的機関が、国際的な防災・人道支援活動に役立つ取り組みを共同で進めるための組織として、平成14年10月に設立されました。以来、「災害の語り継ぎ」をテーマとして毎年公開のフォーラムを実施するなど、関係機関相互のネットワークを活かした諸活動を行っています。

5月17日(木)、人と防災未来センターにおいて、協議会の代表者会議が開催され、加盟団体として当財団と神戸海洋気象台、またオブザーバーとして県立美術館の加盟を承認。

●役員選出

当財団の貝原理事長が会長に、また人と防災未来センターの河田センター長が会長代行に選出されました。

●平成19年度の活動

フォーラムやワークショップの開催を

通じて会員相互の情報交換や昨年度に続き防災教育における国際的な取り組みに関する情報発信を行うことになりました。

また、当財団から協議会加盟機関がネットワークを活かして取り組む研究への助成事業(1件あたり500万円以内)を提案。今後、各機関から受け付けた申請を審査し、助成事業を決定していきます。

危機管理のあり方を考える 災害対策専門研修「トップフォーラム」を開催

人と防災未来センターは鳥取県と共催して5月24日(木)、鳥取県倉吉市で災害対策専門研修「トップフォーラム」を実施しました。

この研修は、災害時に求められる自治体トップのリーダーシップや災害対策本部機能などを題材に自治体の危機管理のあり方を考えるもので、昨年度の徳島県を皮切りに、出前方式で開催地の都道府県と協力して開催しています。

今回は、鳥取県内の市町長や県庁の部局長など40名が参加し、河田恵昭センター長の講義や演習など密度の濃



い内容で行われました。終了後に実施したアンケートによると、本トップフォーラムのテーマである災害対策本部における機能やリーダーに求められる役割への理解度は非常に高く、「この研修で得られた知識を現場での防災訓練などに生かしていきたい」という意見が多くみられました。

参加したある町長は、「住民の立場に立って対応を考える必要性を痛感したし、自身の危機意識も高まった。帰ったら消防など関係機関との研修会を企画したい」と感想を述べていました。

カリキュラム 概要

●開会挨拶 9:30～9:40

鳥取県知事 平井伸治

●講義 9:40～12:35

「災害の教訓と自治体のリーダーに求められる役割」

講師:人と防災未来センター長
河田恵昭(京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授)

「災害対策本部とは何か？」

ー求められる機能とマネジメントー

講師:人と防災未来センター
主任研究員 近藤民代

●ワークショップ 13:00～17:00

「市民に向けてどのようなメッセージや対応方針の発信が求められるか？」

講師:人と防災未来センター
研究調査員 川西 勝

「演習」

市民などへのメッセージ案の作成、
模擬記者会見ほか

●講評 17:00～17:10

人と防災未来センター 研究主幹
越山健治

人と防災未来センターリサーチフェロー
福留邦洋
(新潟大学災害復興研究センター准教授)

兵庫県立美術館

「見果てぬ夢—日本近代画家の絶筆」展

- 会期:平成19年7月8日(日)まで
- 観覧料:一般1,200(1,000)円 大・高校生900(700)円 中・小生500(300)円()内は前売および20名以上の団体割引料金
- 出品内容:明治以降の国内著名画家の作品約100点(日本画家約20点、洋画約80点)

川村記念美術館所蔵 巨匠と出会う名画展

- 会期:平成19年7月28日(土)～10月8日(月・祝)
- 観覧料:一般1,200(1,000)円 大・高校生900(700)円 中・小生500(300)円()内は前売および20名以上の団体割引料金
- 出品内容:優れたコレクションで知られる川村記念美術館(千葉県佐倉市)の改築による休館を機に開催される展示会。レンブラント、モネ、ルノワール、ピカソ、シャガールなど著名な画家たちによる名作約70点

◎休館日:月曜日 ◎開館時間:10:00～18:00
(金・土曜日は午後8時まで) 入場は閉館の30分前まで TEL078-262-0901
URL <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

日本赤十字社兵庫支部

赤十字活動推進ポスター作品募集

兵庫県内の小・中学生を対象に、赤十字の活動推進ポスター作品を募集します。作品は、国際活動、災害救護活動、医療活動、献血など赤十字の活動を紹介するポスターを描いてください。平成19年9月12日(水)必着。作品テーマなど詳しくは下記まで問い合わせください。

●兵庫県支部企画・施設課 TEL078-241-8920
URL <http://www.hyogo.jrc.or.jp/>



JICA兵庫

防災分野の人材育成拠点— JICAに国際防災研修センター開所

5月17日、独立行政法人国際協力機構(JICA)と兵庫県が共同設置した「国際防災研修センター」がJICA兵庫内に開所しました。同日、記念トークショーイベントをJICA兵庫で開催。阪神・淡路大震災をテーマにした映画「ありがとう」主演俳優の赤井英和氏を迎え、齋藤富雄副知事と金子節志・JICA理事が、「世界へ伝えたい〜ひょうごで育む人と防災」をテーマに、災害への備えの重要性と同センターへの期待を語り合いました。同センターは、開発途上国における防災分野の人材育成を調整する拠点として、防災分野での国際的な技術協力を効率的に実施することを目標としています。センターはJICAスタッフ4名(兼任3、専任1)、兵庫県職員2名の体制で、国内で実施する国際防災研修の調整や新たな研修コースの実施のほか、防災分野の人材データベースの整備や研修教材の整理と開発などの事業を実施していく計画です。

TEL078-261-0341
URL <http://www.jica.go.jp/worldmap/kinki.html#hyogo/>

開所記念トークショーで満席となった会場

国連人道問題調整事務所

<http://ochajapan.org>で 世界の災害速報を日本語配信

国連人道問題調整事務所(OCHA)神戸は、世界有数の災害・紛争情報サイトであるリリーフウェブ(<http://www.reliefweb.int>)と連動し、これまで英語で配信されていた世界の災害発生速報を日本語で配信するサービスを開始しました。世界のどこかで災害が発生した場合、当サイト(<http://ochajapan.org>)の「災害速報」の欄に、災害の名前と発生日時、GLIDE番号(世界災害共通番号)などとともに、簡単な概略を日本語で掲載します。

TEL(81-78)262-5555 FAX(81-78)262-5558

こころの
ケアシリーズ
3

救援者
自身のケア

誰かのために 一生懸命働いてきた方々へ

—自分を大切にすることが新たな希望へとつながります—

このようなことは思い当たりませんか?

考え方の変化

- 同じことを繰り返し考える
- 考えがまとまらない
- 記憶力が低下している

からだの変化

- 疲労・めまいを覚える
- 頭痛・肩凝り
- 吐き気・胃痛
- 食欲不振や過食になる
- 不眠が続く

気持ちの変化

- 気分の浮き沈みが激しい
- 涙もろい・イライラする
- あの時あすれば良かったという自責感
- 自分は何も出来ないという無力感を覚える
- 投げやりになったり、皮肉な考えをしがちである
- 他人に対して怒りを覚える
- 緊張や不安が高い

燃えつき症候群について

長期にわたり人に援助する過程で過度に打ち込むあまり、極度に心身が疲労し感情の枯渇などが生じる状態で、欲求不満、自己評価の低下、無力感などを伴います。特に教師や看護師など対人専門職の方々に多く報告されています。また、意欲的な人ほど燃え尽きやすいという指摘もあります。

こんなふうにしてはみてもうどうでしょう!

① 自分の気持ちを考えましょう

どんな気持ち?どれくらいストレスを感じているか?それをはっきりさせるだけでも、ずいぶんと楽になることもあります。

② マイペースで生活しましょう

気持ちと身体のリラックスが大切です。健康な食生活、睡眠、運動、休息をとり、仕事を広げすぎないようにして、自分にあったリズムを保ちましょう。

③ 家族や友人を大切に あなたに体験を分かち合しましょう

自分の体験や感情を言葉にすることは気持ちの整理に役立つことがあります。同じような体験の方と話すのも、別の見方や感じ方を育てる助けとなるでしょう。

こころのケアセンターは

「こころのケア」に関する専門的な相談を受けています。

■相談日:火～土曜

■相談時間:9:00～12:00/13:00～17:00

■面接は予約が必要です。TEL078-200-3010(代)

お気軽に
ご相談ください。
[無料]

学術交流本部

社会人向けキャンパスまるごといきいき体験 平成19年度 「ひょうごオープンカレッジ」の 受講者募集

「ひょうごオープンカレッジ」は、県と大学が共同して実施する社会人向け専門講座です。大学の一流の講師陣による実習やゼミナールなど、参加・体験型の多彩なプログラムを提供します。少人数編成で、大学施設を活用した豊かなキャンパスライフを楽しむことができます。

今年度は、健康福祉や人間理解、生活環境といった様々な分野について、大学の講師陣や教育ノウハウ・施設など大学の資源を活用し、8大学において8コースの講座を実施します。

開設コース

1. 武庫川女子大学コース

日程:7/30~8/3 場所:西宮市
[テーマ]健康と食事
~人・歴史・栄養~

2. 兵庫教育大学コース

日程:9/1・8・15・22・29
場所:加東市
[テーマ]東播磨の風土を歩く

3. 甲子園大学コース

日程:9/8・15・22・30、10/6 場所:宝塚市
[テーマ]あしたの「幸福」を考える~
文化と心の視点から~

4. 兵庫県立大学コース

日程:9/16・22・29、10/6・20 場所:神戸市
[テーマ]地域で起こすモラル・ビジネス

5. 神戸松蔭女子学院大学コース

日程:9/22・29、10/6・13・20 場所:神戸市
[テーマ]常識を疑ってみる心理学

9. 甲南女子大学コース

日程:9/29、10/6・13・20・27 場所:神戸市
[テーマ]あなたらしい“老い”の生活を探る

7. 甲南大学コース

日程:10/28、11/4・11・18・25 場所:神戸市
[テーマ]里山環境カレッジ「環境教育講習会」

8. 神戸学院大学コース

日程:11/10・17・24、12/1・8 場所:神戸市
[テーマ]日常生活を健康に・健康を日常生活へ

●定員:各コース40名程度

●対象者:兵庫県在住または在勤の学習意欲のある方

●受講料:各コース 20,000円

●応募締め切り:原則開講日の2週間前(先着順)

●応募・問い合わせ先:

ひょうご大学連携事業推進機構事務局

〒650-0021 神戸市中央区三宮町1-10-1

(神戸交通センタービル4階)

TEL078-392-0660 FAX078-392-0071

URL <http://www.hyogo-al.gr.jp/open/00index/>



事務局

平成19年度1.17防災未来賞 「ぼうさい甲子園」応募者募集

小学生から大学生を対象に学校や地域で取り組んでいる防災教育や防災活動を全国から募集し、すぐれた取り組みを行っている学校やグループを顕彰する「1.17防災未来賞『ぼうさい甲子園』」を実施します。

優秀な取り組みには「ぼうさい大賞」、「優秀賞」などを選考し、来年1月に神戸市内で表彰式・発表会を開催する予定です。多くの皆さんの応募をお待ちしています。

応募要項

●対象部門:①小学生 ②中学生 ③高校生 ④大学生
※応募は学校、クラス、サークル活動、ボランティア活動、地域などの単位。推薦可。

●対象活動:自然災害から命と暮らしを守るための防災教育や防災活動の取り組み。

●賞:「ぼうさい大賞」:各対象部門から1点(賞金20万円)
「グランプリ」:「ぼうさい大賞」の中から1点(賞金40万円)

「優秀賞」:各対象部門から1点

「奨励賞」:各対象部門から数点

●応募締め切り:9月30日(日)(消印有効)

●応募先:〒530-8251(住所不要)

毎日新聞大阪本社内 ぼうさい甲子園事務局

TEL06-6345-1551(代) FAX 06-6346-8163

Eメール bousai@mbx.mainichi.co.jp

●応募用紙の配布・問い合わせ先:上記応募先あるいは、兵庫県企画管理部防災企画局企画課防災事業係(TEL078-341-7711 内線5388)、(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構(TEL078-262-5585)へ。また、毎日新聞のホームページからも入手できます。



18年度にグランプリを受賞した
兵庫県立舞子高等学校の発表
(毎日新聞社提供)

研究調査本部

21世紀研究シンポジウム 参加者募集

21世紀の諸課題について幅広い観点から議論を深め、当機構の研究成果を県民の皆さんに情報発信します。9月に世界華商大会が神戸市で開催されるのに先だって、日中経済連携の現状や今後の展望等について討議をします。

●日時:7月6日(金) 13:30~17:00

●会場:兵庫県立美術館ミュージアムホール(HAT神戸)

●テーマ:「東アジアと共に生きる日本」

●申し込み・問い合わせ先:

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部
調査部調査課

TEL078-262-5570 FAX078-262-5593

Eメール research@dri.ne.jp

Hem21NEWS vol.4

平成19年6月発行



(財)ひょうご震災記念 21世紀研究機構

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

(人と防災未来センター

ひと未来館6階)

▼URL

<http://www.hemri21.jp>

当機構は、事務局・研究調査本部、人と防災未来センター、学術交流本部、こころのケアセンターで構成しています。

●事務局

TEL078-262-5585

FAX078-262-5587

●研究調査本部

TEL078-262-5570

FAX078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL078-262-5050

FAX078-262-5055

●学術交流本部

〒650-0021

神戸市中央区三宮町1-10-1

神戸交通センタービル4階

TEL078-327-4380

FAX078-392-0071

●こころのケアセンター

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL078-200-3010

FAX078-200-3017



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



神戸・ポートアイランド 発見!わたしの夏休暇。

プール&宿泊プラン 6/30(土)~9/1(土)

■お1人さま料金、ご1泊、朝食付、税・サービス料込

1室4名さま	¥9,000~	特典 ●ルーフガーデンプール 滞在中無料 ほか
1室3名さま	¥10,000~	
1室2名さま	¥12,000~	

◆小学生以下は¥4,000引き

エグゼクティブフロア オーバルクラブ5周年記念ご宿泊プラン

7/31(火)まで

■お1人さま料金、ご1泊、朝食付、税・サービス料込

クラブツイン・ダブル	¥14,500~	さまざま 特典付き!
エグゼクティブスイートツイン・ コーナースイートダブル	¥20,000~	

<http://www.portopia.co.jp>

宿泊予約専用フリーダイヤル
0120-70-6101

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10-1
Tel.078-302-1111(代表)

ポートピアホテル



当機構の 研究成果を 発表

平成19年度 研究交流セミナーを 開催

当機構の研究成果

(複数年研究の中間報告も含む)の
政策形成への活用と

新たな政策課題の抽出を図るため、
政策担当者、外部の有識者、
県民等との意見交換を行う

研究交流セミナーを5月15日に
兵庫県民会館において開催しました。

上記の関係者約100人が参加し、
高坂健次氏による基調講演に引き続き、
4つのテーマをかがけて

テーマ毎に各研究所の平成18年度の
研究成果についての発表と
質疑が行われました。

◎最終報告及び一部の中間報告の
全文は、ホームページでも閲覧できます。

▼URL
<http://www.hemri21.jp/kenkyusyo/>



▲高坂健次 上級研究員

基調講演

「望ましい 21世紀文明のあり方と その課題、 研究の方向性について」

高坂健次 上級研究員
関西学院大学社会学部長

災害研究に取り組んできたことから、
21世紀の世界と日本の課題を考えたい。

「承認」と「格差」の問題

今回の阪神・淡路大震災においては、「承認」と「格差」が重要な問題として浮かび上がってきた。

震災後、県外に転出された被災者への支援をどうするか議論となったが、意識せずに特定の人やグループを疎外し、排除してしまうことをめぐる問題が「承認」の問題である。

また、住宅再建のための二重ローン対策が検討されたが、所得というよりも資産の格差に因るのではないかということなど、これは所得や資産の分配をめぐる「格差」の問題である。震災研究は世界が抱えている問題に決して無縁ではない。

消極的幸福観の再考

我々は幸福をどのように考えればよいのか。今、「幸福の加算」ではなく、「不幸の減算」のことを提案したい。日本人の意識の底には、朝送り出した人が無事帰ってくることを望む気持ちがある。「無事」は、積極的幸福観ではなく、消極的幸福観といえる。この二つの幸福のバランスが大切である。

信頼の仕組みづくり

今後の課題である「安全・安心」には、国家の安全と人間の安全保障という考え方が必要である。

安全・安心の確立には、複雑なメカニズムがありそうである。「信頼」があってこそ、安全と安心の良き循環のメカニズム全体を底上げしていくことができるのではないだろうか。

社会に「信頼」が欠けているのであれば、それを取り戻す仕組みを構築していかなければならない。

第1テーマ

「地域再生を考える」

コーディネーター
加藤恵正 地域政策研究所長

「都市圏域の空間構造に関する研究」 最終報告 ● 吉原 誠 研究員

◎結論:GISを活用し、都市圏、都市、地域という3つのレベルで分析を行い、JR沿線で人口密度が少し高く、全体として人口が拡散しているという都市計画課題を明らかにした。

◎手法:神戸・大阪大都市圏の緑辺部に位置する東播磨地域を対象として、この地域を都市圏レベル、都市レベル、地域レベルでGIS(地理情報システム)を用いた分析。加古川駅周辺、野口町、神戸町を課題地区とした。

◎課題:広域連携の必要性、都市的魅力と豊かな自然環境が融合した広域生活圏の形成、分散集約型の都市構造、文化的側面を付加した中心市街地の再生等の取り組みが必要である。



「関西圏域における広域行政研究会」 中間報告 ● 高松淳也 研究員



府県と大都市の関係、大都市の多様化、制度の柔軟性などの大都市制度をめぐる論点整理を行い中間報告とした。今後は、上記の論点を地方自治制度に関する議論の足がかりとする。

「都市における国際競争力醸成のための地域政策のあり方に関する研究」 中間報告 ● 田端和彦 主任研究員

兵庫県が有する多様な地域特性に合わせた地域マネジメントの必要性を提起し、そのことが次世代の地域政策として主体性を持った地域の国際競争力醸成となることを示し、中間報告とした。

「自立型地域社会の構築に向けた コミュニティ政策に関する研究」 中間報告 ● 山本匡毅 主任研究員

都市部においてコミュニティ・ビジネスが生き残るための条件を明らかにするとともに、中山間地域を持続可能にするために求められる対応策を現地調査から明らかにし、中間報告とした。

第2テーマ

「共生社会を考える」

コーディネーター

野々山久也 少子・家庭政策研究所長

「子育て期の家族を支えるコミュニティ活動の展開—父親の活動をめぐって—」

中間報告 ● 二階堂裕子 主任研究員

◎結論：子育て期における父親の役割に着目し、各地の「父子教室」や「父親の会」の活動が、コミュニティ全体の子育て期の家族を支える取り組みへと発展する可能性が高いことを明らかにした。

◎手法：それぞれの実践活動におけるインタビュー調査や参与観察。

◎課題：父親の会の活動を支えるために、父親の会による取り組みが各地で行なわれ、一定の成果もあげている様子を広く伝えていくこと、父親の会のネットワーク作り支援と情報交換の場の提供により、それぞれの会の活性化を支えること、これらが方策として整備される必要がある。



「自然学校、トライやる・ウィーク等兵庫型体験学習の効果、評価の分析」

中間報告 ● 大瀧友織 研究員



「自己の体験を肯定的に意味づけることから派生する後輩たちへの共感的まなざし」や「主体的に行動するという経験の獲得」などをキーワードに今後はアンケート調査も加えた分析を行い、調査研究を進める。

「ライフスタイルの多様性を支える少子化対策の展開」

中間報告 ● 和泉広恵 主任研究員

地域特性を考慮した少子化対策が必要であること、家族支援のために、企業同士が支え合う仕組みが構築されつつあることが明らかになり、民間主導の少子化対策の展開の可能性が示された。

「人口減少社会における世代間分担のあり方、高齢社会の将来展望についての研究」

中間報告 ● 村上寿来 主任研究員

超高齢社会の諸課題について、介護保険を補完する地域システムの構築など研究会での議論を報告。兵庫県は

2050年に人口430万人、高齢化率42.7%、単身世帯割合41.5%になるなど、平成17年国勢調査による兵庫県の将来人口・世帯数の暫定推計結果を報告した。



「団塊の世代等、中高年世代の意識等に関する調査研究」

中間報告 ● 張帆 主任研究員

引退後の団塊世代等の中高年の生活に関する意識や実態を明らかにするために実施したアンケート調査の単純集計結果によると60歳以後の就業希望は76.2%、引退後の住み替え希望は17.2%、老後に必要な資金は平均2878万円、4割はその額をほとんど確保できていないことを報告した。

第3テーマ

「安全安心を考える」

コーディネーター

林敏彦 安全安心社会研究所長

「『住の安全・安心』に関する研究—災害多発国での住宅政策のあり方を中心に」

最終報告 ● 磯辺康子 特別研究員

◎結論：都市化などによる従来の災害対策の不十分さや少子高齢化を背景とした弱者に対するセーフティネットの更なる整備の必要性和、その上での住の安全・安心の確保が重要な課題である。

◎手法：被災地ヒアリングおよび神戸市にある復興公営住宅での調査票調査等。

◎課題：現地の被災者が自らの力で立ち上がっていくことができるようにする具体的な設計が今後の課題である。



「『自然災害を始め、社会の様々な不安に対する安全・安心の仕組みづくりに関する研究』

中間報告 ● 石田 祐 研究員

安全・安心の価値とそれ以外の諸価値とのトレードオフや個人と社会のバランスをどのように取るかを検討することが必要であることを中間報告で明らかにした。今後は、どのように安全・安心の価値を重み付け、確保するかを研究していく。

「『大災害時に備えた我が国危機管理機能のバックアップ体制に関する研究』

中間報告 ● 入江寿大 研究員

「災害からの復興過程」と「通信の情報セキュリティと首都機能」の視角から、危機管理機能のバックアップ問題を検討した。今後は、中核的な命令系統を緊急時にどのようにバックアップしていくかが課題であると報告した。

「『多自然居住地域における安全・安心に関する研究』

中間報告 ● 山崎 亮 主任研究員

多自然居住地域の「限界集落」や災害被災地の集落運営を分析し、安全や安心を確保するための基盤すら危うくなっている集落が多く、その程度や状況に応じた対応策が緊急に求められると報告した。

今後は、限界集落の実態調査をどのように政策提言につなげるかをGISを用いた集落カルテ作成により研究していく。

第4テーマ

「多文化共生を考える」

コーディネーター

芹田健太郎 学術交流本部研究部長



「『多文化共生社会の実現に向けて』

中間報告 ● 竹沢泰子 主任研究員

兵庫県内の多文化共生施策や取り組みについて全般的な観点から行った研究成果として、①神戸市内と地方との間に生じている情報格差問題②NGO、特に外国人団体のコミュニティにおける代表性の問題③NGOや自治体が提供する多言語支援活動に含まれていない言語を母語とする外国人や、これと関係のない在住外国人の声を掘り上げる方法、を指摘し、現段階での政策提言として、①多文化共生のハブ(中核)的機関の設置②大規模の「多文化共生コーディネーター」(仮称)の育成、外国人コミュニティのリーダーシップ育成支援事業の開始、を提言した。

「『母語教育の在り方』

中間報告 ● 岡田浩樹 主任研究員

対象の多様性、制度的諸問題、自治体の領域を超える諸問題等、関連する問題が多様かつ複雑であるという兵庫県における母語教育の地域的特徴を明らかにした。